



公立学校共済組合
四国中央病院

日本医療機能評価機構認定病院

しこく

ホームページアドレス <http://www.shikoku.ne.jp/ctr-hsp/>

第45号

2011年10月

住所: 愛媛県四国中央市川之江町2233番地 TEL(0896)58-3515 FAX(0896)58-3464



今月のもくじ

◇巻頭言 看護部の取り組みについて	看護部長 薦田和香子	2・3
◇診療室だより 禁煙外来事始ー禁煙のすゝめー	健康管理センター長 相原 泰	4
◇部署だより 心療内科(南館)		5
◇地域連携だより 開放病床登録医師のご紹介		6
◇新任職員紹介		6
◇ひろば 「肝臓患者さんの会」の立ち上げ	肝胆膵外科部長 石川正志	7
◇院内のできごと		8
◇表紙のことば		8
◇編集後記		8

病院理念

【真心・信頼・連携・思いやり】

広報誌

しこく

第45号 平成23年10月15日
編集 四国中央病院広報・年報委員会
e-mail s-tyuou@shikoku.ne.jp

看護部の取り組みについて



看護部長（認定看護管理者）

薦田 和香子

今回、昨今の看護部の取り組みについて、紹介させていただきます。

看護部では、2008年度から「フィッシュ哲学」を導入しています。「フィッシュ哲学」とは、アメリカ、シアトルのバイク・プレイス魚市場のオーナーと従業員の間で生まれた、単調な仕事でも楽しく取り組もうとし、快適な職場環境を作るための4つの心がけ（①仕事を楽しむ・遊ぶ ②人を喜ばす ③注意を向ける ④態度を選ぶ）のことであり、日本で初めて導入した慈恵医科大学病院看護部から発信されたものです。

当看護部でも、導入に際しては「遊び心と思いやりのある前向きな姿勢」で、各部署単位で自主的にできることから実践していきました。季節感や遊び心を盛り込んだ癒しに繋がる飾りつけなどが院内で数多く見られるようになり、催し物や研修などにも生かされています。さらにいろいろな面にフィッシュ哲学を浸透させていき、元気でモチベーション向上とやりがいのもてる職場づくりに繋げていきたいと思えます。

また、公立学校共済組合本部の看護部活性化支援策の一つである活性化企画の取り組みとして、「口腔ケアの標準化と定着化」（2008年度採択）では、口腔ケアチームの継続した取り組みが看護ケアの質向上に繋がっています。また、「中核病院として、地域に向けて看護のアピール」（2010年度採択）では、

- ・がんと向き合う皆さんのふれあいサロン「顔晴れサロン」
- ・当院でお産したお母さんの同窓会
- ・口腔ケアの輪を広げよう
- ・メディカルアロマセラピーの実際（市民公開講座）
- ・地域のケアマネージャー・ヘルパーさんとの交流会

などを行い、楽しさ、やりがい、達成感を感じることができたのではないかと思います。

このような取り組みを継続しつつ、今年度、看護部では、病院長が新年挨拶で述べた「病院・医療人の品格、医療の質の向上に努力が必要」ということに沿って、「看護の質の向上」や「連携の推進」に言及し、「チーム医療」の中で看護の専門性発揮を目標設定し取り組んでいます。

患者さんやご家族の方々の医療に対する関心も高くなり、良質、安心、安全な医療が求められています。また、医療の高度化や複雑化に伴う業務の増大により、医療専門職の意識や医療サービスの提供体制も変化してきました。そうした中で、協働や患者中心の医療、とりわけチーム医療の必要性は高まっています。

チーム医療とは、「医療に従事する多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつ互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」（2010年3月19日 厚労省「チーム医療の推進に関する検討会」報告書）とあります。そして、チーム医療を推進していくためには、①各医療スタッフの専門性の向上 ②各医療スタッフの役割の拡大 ③各医療スタッフ間の連携・補完の推進が必要であると述べられています。

その中で、看護師は、「チーム医療のキーパーソン」として位置づけられています。看護師は24時間患者さんの療養生活を支援するという重要な役割があるためであり、その意味するところで専門性の発揮が求められています。さらに、チーム医療の中心は患者さんやご家族であり、医療者と患者さんとのパートナーシップも重要です。看護師は他職種の専門性や業務内容を理解し認めることにより、他職種からも認められ、信頼関係を構築していくことができます。まずは個々の看護師の質を上げ、自律性を高め、看護のチーム力を向上させていくことにより、真のチーム医療推進に寄与できると考えています。

また、病院を永続させ、地域社会の状況に対応できるように、病院全体で各職種が相互作用し、相乗効果を生むような運営ができ、地域の皆さんに選ばれる病院を目指したいと思います。

一人一人の看護師が看護という仕事を通して成長し、自分自身を生きさせていけるような取り組みや働きかけもしていきたいと思っています。

**『生かされていることに感謝し、
自分自身を生きさせていく
夢を持って、いきいきと、楽しく、前向きに！』**

これが、今年度の看護部の合言葉です。





「禁煙外来」事始

— 禁煙のすゝめ —

健康管理センター長

相原 泰

誕生で やめたタバコを 子がふかす

私の禁煙歴は、もう33年になります。なぜ数字を覚えているかといいますと、私の長男が誕生した年に禁煙したからであります。つまり長男の年齢と私の禁煙歴が同じなのです。しかしながら、その長男がタバコを吸っております。おまけに次男、三男までもが。親として医師として禁煙を勧めますが馬の耳に念仏。ところが、我が子も禁煙指導できないような私に、病院長から禁煙外来をやってくれないかと頼まれたのが今年の初め。折しも病院機能評価の準備中でもあり敷地内禁煙の建て前上、禁煙外来の開設は避けて通れない道でもありました。そして内科外来看護師の協力のもと平成23年4月より禁煙外来の看板が立ち上がりました。

看板を上げたからといって患者がわんさと来る訳ではありませんので、まずは院内の特に職員の喫煙者をターゲットに開始いたしました。数名の禁煙希望者が外来を訪れ、12週間の禁煙プログラムの期間を通して励まし合い、時に騙し合い、何とか最初の成功者が誕生したのが6月27日でありました。禁煙成功者には病院長からの表彰状を渡すことにしておりますが、この日は本院第一号という記念すべき日にて、看護部長、事務部長(次のターゲットです)の見守る中、病院長自らが表彰状授与に立ち会われました。

現在職員以外にも少しずつ外来患者も増えてきておりますが、まずは院内職員の喫煙率0%を目標に禁煙外来を継続してゆきたいと思っております。喫煙は単なる習慣や嗜好ではなく「ニコチン依存症」という慢性疾患、つまり病気であります。そして、喫煙推進は喫煙者・非喫煙者の健康の維持と膨大な保険財政の節約になり、社会全体の健康増進に寄与する最大の方策であることは誰しも理解しうることであります。最近では内服できる禁煙補助薬の出現にて禁煙成功率も半分以上に上がっております。冒頭で私が述べたようなほんの些細なきっかけでも結構です。禁煙を希望されておられる喫煙者の皆さん、あなたの周りにいるすべての愛すべき人達のためにも禁煙外来に足を運ばれては如何でしょうか。

病院長よりの表彰状授与



禁煙外来スタッフと禁煙成功者



心療内科(南館)

◆職場復帰プログラムとは

四国中央病院で週一回実施しています。
 教職についている方で、心の健康問題で休職・休病されている方を対象とし、継続して参加してもらい、プログラムを通じて自己のストレスについて学び、ストレスコントロールを身につけ、スムーズな復帰を目指す事を目的としています。
 ウォーミングアップコース、復帰コースの二つに分かれており、交互に実施しています。実施スタッフは医師、臨床心理士、精神保健福祉士、看護師です。

*12月6日～2月14日までの復帰コースは11月18日が募集締め切りです。参加ご希望の方はメンタルヘルス係までご連絡下さい。(内線705)

◆メンタルヘルス相談とは

公立学校共済組合員およびその被扶養者を対象とし、メンタルヘルスに関する不安や相談などを受け付けております。日常のストレスや不安、心の健康問題について、臨床心理士が対応します。カウンセリングのように継続するものではなく、単発で行うもので、年に3回まで利用が可能です。

*両方とも個人と病院が契約し、病院が行うリハビリとなるため、本人の直接の申込みが必要となります。個人情報はもちろん保護されます。



宮城石巻



岩手宮古

東日本大震災で被災した 教職員のメンタルヘルス相談

東日本大震災で被災した教職員のメンタルヘルス相談として、震災後1ヶ月に宮城支部、5ヶ月後に岩手支部より直営病院に協力依頼されたことを受け、両県に当院の看護師2名が派遣されました。訪問先は石巻、盛岡、宮古、山田を巡回しました。支部職員、臨床心理士、看護師、運転手からなるチーム編成で教職員の健康相談・カウンセリング行いました。



～ 開放病床登録医師のご紹介【第4回】～

当院の開放病床に登録された先生方からご紹介いただいた患者さんには、ご紹介の先生と当院の医師とが共同で診療を行っており、入院前から一貫した医療をご提供しています。



クリニック山崎内科

登録医：山崎柳一
住 所：四国中央市川之江町 2978-1
電話番号：0896-57-0035
診 療 科：内科、消化器科、呼吸器科、循環器科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
午後15:00～18:00	○	○	×	○	○	×	×



当クリニックでは内科全般の診療を行っていますが、四国中央病院の多くの診療科に患者様を紹介させていただき、病診連携室を通して病院スタッフの皆様のご協力のもと、患者様中心の医療を行っております。今後は開放病床登録医として病床診療の参加や、わかりやすい診療情報の提供などを心がけてゆきたいと思っております。



宮崎内科

登録医：宮崎修一
住 所：四国中央市妻鳥町 473-2
電話番号：0896-59-5000
診 療 科：内科、消化器科、呼吸器科

※午前の受付は8:30から

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
午後15:00～18:00	○	○	○	×	○	×	×



開院して10年になります。当初よりCT・MRI・大腸ファイバー等の検査や診断あるいは治療困難な症例につきましては四国中央病院に紹介させて頂いており、大変お世話になっております。今後も開放病床登録医として四国中央病院との連携が更に密になり、これまで以上に地域医療に貢献できると考えています。

新任教員紹介

(平成23.2～8月採用者)

新規採用医師

高橋 芳徳	整形外科医員	徳島大学病院より赴任してまいりました。地域医療に貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。
井上 英治	精神科医員	徳島大学病院より赴任してまいりました。地域の精神医療に貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。
中村 文香	内科医員	徳島大学病院より赴任いたしました。地域医療に貢献できるよう、「笑顔」をモットーに頑張りますので、よろしくお願い致します。
豊田 剛	外科医長	皆様、どうぞよろしくお願いいたします。
日野ひとみ	小児科医長	3月まで、新宮診療所でプライマリケア医として勤務していました。ここでも、多くの皆様笑顔になれるように頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。
石川 正志	肝胆膵外科部長	川之江高校を卒業以来、30数年振りに帰ってまいりました。少しでも地域医療に貢献したいと思っています。宜しくお願い致します。
三次 実	循環器内科部長	5月から勤務することになりました。循環器を専門にしております。広く、地域医療に貢献できるように頑張りますので、よろしくお願い致します。
細川恵美子	内科医員	7月から勤務させて頂くことになりました。よろしくお願い致します。
細川 忠宣	泌尿器科医員	7月から勤務することになりました。親しみをもってもらえる診療を心がけていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

看護部門

谷口英里 宮崎佳子 石川絢子 高橋健一 眞鍋聖那 藤田純子 北中麻里 石井千智 宝利洋子 脇 光葉
篠原弘子 仙波幸香 廣岡直樹 高橋真美 宮崎由美子 妻鳥加奈 石川順子 大西美穂 森實留美子

医療技術部門

星川浩美 大塚識穂 黒下弘樹 菰田由美 宮内恭子 山田美香 石津睦子

事務部門

鈴木恵理 森下勝司 鈴木恵美子 細川卓幹

みなさんよろしくお願い致します

「四国中央病院 肝臓病患者さんの会」 の立ち上げ



肝胆膵外科部長
石川 正志

慢性の肝臓疾患は、患者さんがおそらく一生その病気をかかえて生活する疾患です。従って、慢性肝疾患の医療には、患者さんに対する教育や病気に関する情報の提供は不可欠です。日本では肝臓病は国民病とも言われるほど数多く 200 万人以上の方が患い、患者さんに対する啓蒙や教育が必要となっています。しかも糖尿病、高血圧、高脂血症、喘息、腎炎など数ある慢性疾患の中においても慢性肝臓病は、おそらく最も難しく、奥深い、応用問題といえる疾患群です。慢性肝疾患では、経過中に発癌の問題がひかえており、患者さんは癌に対する不安にも悩まされます。癌が発症すれば病名告知や治療の選択の問題があり、進行すれば緩和医療も必要です。緩和医療では家族に対するケアも重要となります。

最近、B型肝炎、C型肝炎ウイルスは特に頻繁に報道されるため、患者さんの間で不安感が増大しています。ウイルス感染症として家族や他人へ感染させないかとの不安もあり、感染予防の教育も必要です。インターフェロンや抗ウイルス剤など新薬が続々と開発され、医療費面からも情報が入り乱れています。

食道静脈瘤や肝癌に対する治療も何通りも開発され、治療の選択に患者さんの参加が求められます。このように患者さんが慢性肝臓病に対して必要とする情報は数限りなくあげられます。そして、その一つ一つは患者さんの不安をとるよううまく伝えることの難しいものです。

このように肝臓疾患は種類も多く、診断、治療も困難な面があります。しかし、現実には、一人一人の患者さんに対して外来診療では、満足に説明できる時間を取ることが難しいのが実情です。また四国中央市には「肝炎患者の会」はありません。そのためか四国中央市での肝臓病患者は市外で診療を受けているようです。そこで、なるべく多くの患者さんを対象に役に立つ情報提供と病気の啓蒙の意味から「肝臓病患者さんの会」の立ち上げを考えました。

当院では院内でも職員を対象に肝疾患に対する勉強会を行うとともに、市民の皆さんを対象に「肝臓病患者さんの会」の立ち上げ、定期的に毎回テーマを決めて公開講座を開き、情報を発信していきたいと思っております。現在肝臓を病んでいるいないに関わらず、興味のある方はお気軽に御参加下さい。当日参加でかまいません。随時病院のホームページや市報などに公開講座の日時を呈示いたします。またこれとは別に肝臓病関係でご心配なことや疑問点がありましたら、いつでも外来で受け付けておりますので、御連絡ください。

院内のできごと (H23.2~8)

- 2月15日 院内TQM発表会
- 3月 2日 院内研修会「耐性菌対策と抗菌薬の適正使用について」
東京医科大学 松本哲哉先生
- 3月10日 院内研修会「新しい口腔ケアへの取り組み方 オーラルマネジメント」
兵庫医科大学 岸本裕充先生
- 3月16日 院内研修会「医療安全とヒューマンファクター 針刺し切創報告から」
- 3月17日 第5回市民公開講座(石村看護師)《アロマの話 一心も体も軽くなるよー》
- 4月22日 顔晴れサロン(6月24日、8月5日にも開催)
癒しのピアノコンサート
- 5月16日 四国中央病院開院記念式典
- 5月17日 第6回市民公開講座(加地医師)
《ロコモティブシンドローム(運動器症候群) 一転ばぬ先の杖ー》
- 5月21日 院内看護研究発表会
- 7月15日 院内懇親会 ビアパーティー
- 7月19日 院内学習会「障害のある人とのふれあいと人権」
- 7月20日 オープンホスピタル
- 7月22日 第7回市民公開講座(小島医師)
《前立腺がんのお話 ー早期発見と治療についてー 》



■表紙のこぼれ ー土佐北街道をゆく虚無僧衆ー

尺八を吹きながら古道を進みゆく謎めいた虚無僧の集団、はてな、これは江戸時代。いやいや、歴とした現代であります。地元四国中央市の尺八愛好家の集まりである「竹友会」の有志の皆さん方が毎年5月5日のこのこどもの日に、川之江と新宮の境にある堀切峠から入った土佐北街道での光景です。

土佐北街道は、愛媛県川之江から新宮、馬立を越え、高知県立川、本山などを経て高知に至る道、ほぼ現在の愛媛県道・高知県道5号川之江大豊線に相当します。古くは延暦16年(797年)に開かれ、江戸時代中期享保3年(1718年)以来、土佐藩主山内侯が参勤交代に使用しました。また金比羅参りが盛んになると、土佐から伊予に出る陸路として多くの旅人がこの街道を利用したそうです。幕末には坂本竜馬や板垣退助らもこの街道を越えたとか。平成8年には文化庁の「歴史の道百選」にも選ばれております。

歴史と浪漫がいっぱい詰まったこの土佐北街道の落ち葉を踏みしめながら木立の中を歩いてみませんか。いずこからともなく笛の音(ね)が聞こえてくるかも知れませんよ。

■編集後記

広報誌「しこく」は、編集内容をリニューアルし10月発刊にこぎつけることができました。本年2月に発行以来諸般の事情にて発刊が大変遅れましたこと誠に申し訳ありませんでした。

今回は新たに巻頭言を設け、病院の進むべき行程・方策などにつきまして各方面からのご意見を伺うコーナーといたしました。10月号は看護部を代表いたしまして薦田看護部長に登場していただきましたが、チーム医療のキーパーソンともいえる看護師による真のチーム医療推進の抱負を述べられ職員個々の自覚の重要性を痛感させられました。また、現場の声として、診察室だより、各部署だより、地域連携便り、自由な意見を集めた「ひろば」などのコーナーも設けました。表紙の写真も、四国中央市に所縁のある風景、行事などの写真や書画など多彩な分野で紹介したいと思っておりますのでどしどし募集頂ければ幸いです。ページをめくると、日々現場で働く皆さんの息遣いが聞こえてくるような広報誌を目指してゆきたいと思っておりますので何卒ご支援ご協力お願いいたします。

(文責 相原)